

富岡にゆかりの 著名人



●直木三十五

小説家・直木三十五は1933（昭和8）年12月に富岡に移り住みました。碑は旧直木邸の入口にあり、碑文は「芸術は短く、貧乏は長し」。友人の菊池寛が始めた直木賞は、代表的な文学賞として今日まで伝えられています。



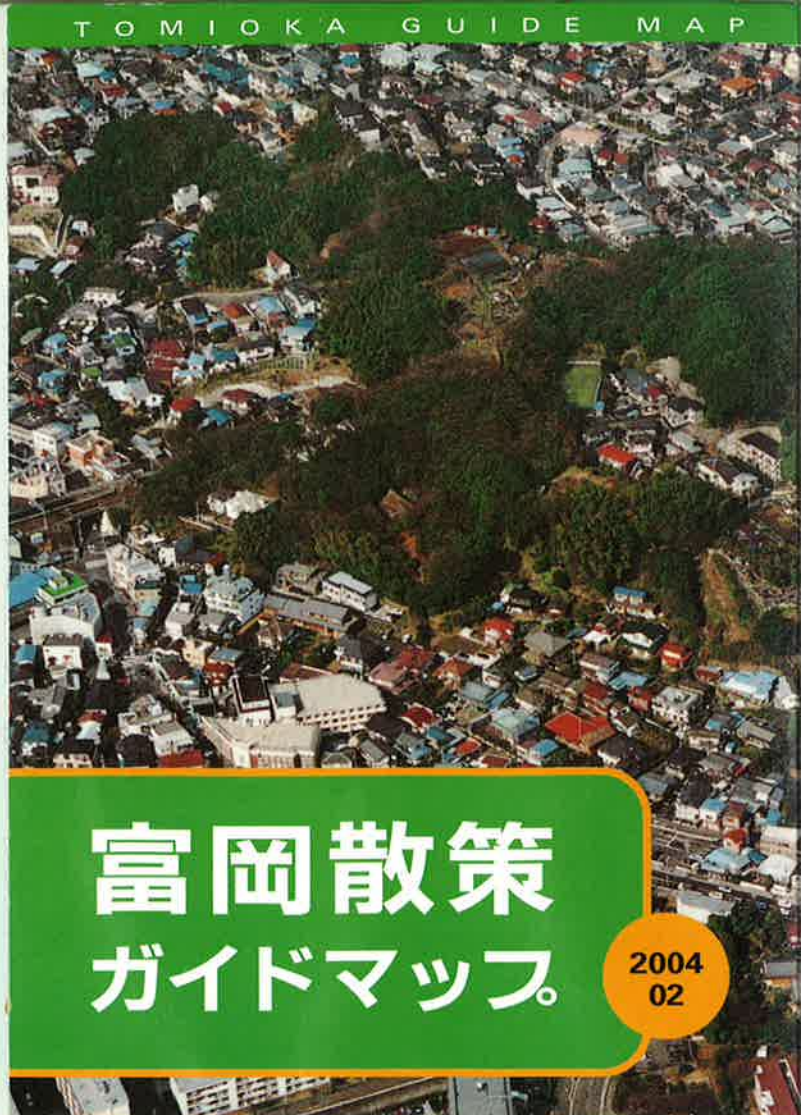
●ヘボン博士

ヘボン式ローマ字で有名な宣教師で医師のヘボン博士は1877（明治10）年の夏、慶珊寺に逗留し、富岡の海「宮の前海岸」は海水浴に最適と「潮湯治（海水浴）」を周囲に勧め、海水浴発祥の地の一つとも言われています。



●三条実美

明治時代、横浜から金沢へ約1時間で行く船の利用者は多く、船上からの風光明媚な金沢の海岸線を鑑賞しました。幕末・明治期の政治家、三条実美は、本牧から観音崎の海岸線を「富岡海荘図巻」として描かせました。



富岡散策 ガイドマップ

2004
02

三条実美が描かせた海岸線「富岡海荘図巻」と 当時の測量図



宝隆寺鼻

三条実美別荘

クツモ鼻



八幡鼻

十二天鼻



明治22年に三条実美が画家に描かせた「富岡海荘図巻」と大正4年の海図（海軍）を並べて見ると、八幡鼻、富岡八幡宮の社叢林、富岡総合公園の丸山、クツモ鼻などが確認でき、変化に富んだ海岸線の様子がわかります。

交通アクセス： 最寄駅

- 京浜急行「京急富岡駅」
- 金沢シーサイドライン
「南部市場駅」、
「並木中央駅」



出典

- ・ヘボン博士肖像写真：横浜開港資料館発行「資料が語る横浜の百年」平成3年6月2日発行より転載
 - ・三条実美肖像画：楠山永雄氏所蔵（絵ハガキ）より転載
 - ・富岡海荘図巻：横浜開港資料館所蔵より
 - ・根岸湾海図：海上保安庁海洋情報部 海図第63号 大正4年6月1日発行より一部転載
 - ・金澤発見伝：横浜市地形図複製承認番号 平8都第6109号より一部転載
- 主な参考文献
- ・広報よこはま金沢区版：平成14年10月発行
 - ・図説 かなざわの歴史：金沢区制五十周年記念事業実行委員会 平成13年1月25日発行
 - ・金沢とこころ 改訂版：金沢区制五十周年記念事業実行委員会 平成10年7月21日発行
 - ・よこはま小川の散歩道ガイド：横浜市下水道局 平成15年3月発行

古地図と重ねて見る 富岡の今・昔

「富岡」の地名の由来

富岡周辺は多くの丘が集まっていることから「十三岡(とみおか)」と呼ばれたとの説と、白い雉(きじ)を獲って帝に献じ、その白雉の霊を慰めるために塚を作ったため、「鳥見ヶ丘」と呼ばれ、これが「富岡」となったとの説があります。



『避暑によく、避寒によし。風光明媚、自然の大公園ともいふべき武州金澤は、海は遠浅で水は清く波静かである。盛夏は沿岸一帯海水浴場として浴客に賑ひ、…』この一節は、大正15年発行「金澤六浦案内」の一部です。しかし、第二次世界大戦、海面の埋立て、丘陵部の宅地造成、工場の進出等を通じて金澤のまちは大きな変貌を遂げました。かつての谷戸と丘陵の地形や古道、名所旧跡を現在の地図に重ねてみると、住み良くなった部分と後世にまで伝えたい地域の魅力が浮かび上がってきます。

凡例

- 海(近世初期の想定図)
- 丘陵地(明治前期以前の想定図)
- 平地/谷戸(同上)
- 集落(同上)
- 旧道

空から見た富岡、 まちの成り立ち

金沢地先の埋め立て

横浜市の6大事業の1つとして、1971(昭和46)年から約20年をかけて、富岡柴町・平潟湾にかけての海岸線約7,000m、幅は最大2,300mの広大な海面、約660万㎡が埋め立てられました。現在では埋立ては完了し、住宅地や工業団地、レクリエーション施設ができ、旧海岸線をいかした緑地や公園なども設けられています。

1969(昭和44)年

昭和30年代に丘陵台地を中心に住宅地開発が始まりました。開発地のエッジにあたる斜面緑地がかつての丘陵の面影を今にとどめています。1971(昭和46)年からは海辺の大規模な埋め立てが始まりました。



1993(平成5)年

海辺には工業団地が、富岡・長浜の前面には並木という新たな住宅地も作られ、昭和50年代にはシーサイドタウンへの入居が始まりました。1988(平成元)年には新杉田と金沢八景を結ぶ金沢シーサイドラインが開通しました。



とみおか・歴史と緑の散策路

金沢区北部の富岡周辺は、古くからの歴史がある街で、それを忍ばせる史跡や名所が今も残ります。そんな史跡や名所を訪ねて、富岡を歩いてみませんか。

富岡の別荘文化

気候も良く海を望む景観にも恵まれた富岡には東京から多くの観光客が訪れました。1880(明治13)年に八幡宮前の海岸に料亭「海宝楼」、1886(明治19)年に「金波楼」が開設され、富岡で閑談が開かれたほどです。明治から大正にかけて、この地に別荘をもつ中央政界の大物や文化人も多く現われました。太政大臣や総理大臣を歴任した三条実美は1888(明治21)年に現在の富岡東二丁目の海岸に別荘を建てています。また、伊藤博文は海岸の野本家に仮寓し、井上馨はその隣接地に別荘を建てました。慶珊寺の隣には地租改正や殖産興業政策を推進した松方正義が住み、京急富岡駅近くには日本画壇の大物であった川合玉堂の「二松庵」など、多くの著名人が富岡に来住しました。

●長昌寺 16世紀後半

小田原北条氏の家臣であった柳下豊後守が戦死し、その菩提を弔うために息子の忠公が開山したと言われ、天然痘除けの守り神で有名な芋神様(芋観世音)も祭られています。



本堂の裏には直木三十五の墓があり2月には代表作の「南国太平記」にちなんだ南国忌が開かれています。

●旧川合玉堂別邸 1918年(大正7):横浜市指定有形文化財



川合玉堂は大正・昭和を代表する近代日本画の大家です。大正時代に、海を望める富岡に別荘を構え、邸内にあった2本の松にちなみ、「二松庵」と呼ばれていました。代表作の一つ

「紅白梅」はこの地で描かれたと言われています。1932(昭和7)年、横須賀からの軍用機の飛来が増え、奥多摩へ移住しました。

(個人宅のため敷地内には入れません)

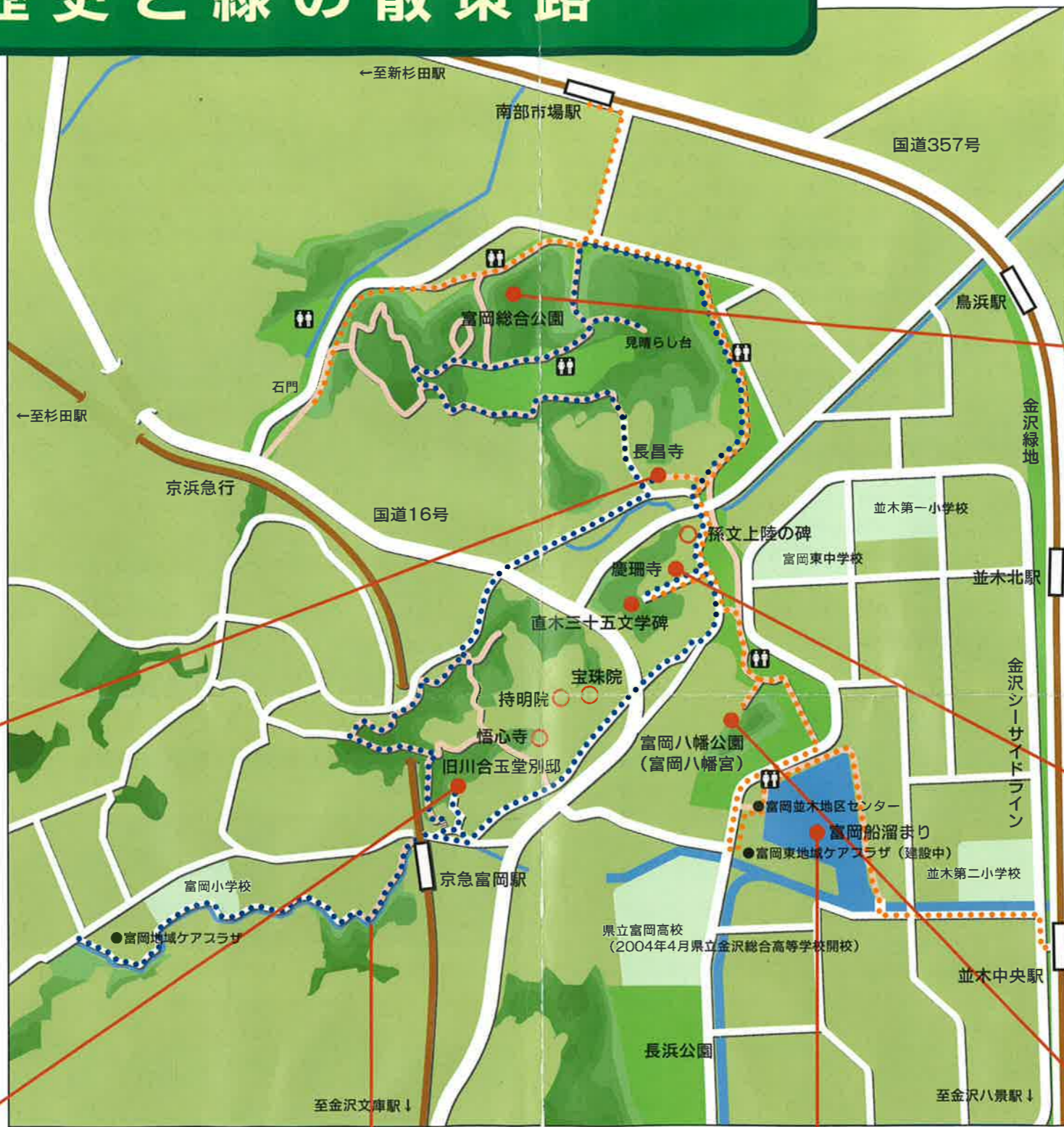


●富岡川せせらぎ緑道

京急富岡駅から富岡小学校の南側を住宅街に沿って整備された緑道です。富岡川を暗渠化し、その上部に小川と散策路を作りました。周辺に残る畑や緑深い山の斜面と調和し、富岡小学校の季節の行事を彩るなど、市民の生活に潤いと安らぎをもたらす街の中の水辺の小径として利用されています。平成12年には横浜・人・まち・デザイン賞(まちなみ景観部門)を受賞しました。

●富岡船溜まり

旧海岸線近くに残された水辺で、ボウなどの魚がはねる姿や、渡り鳥や水鳥たちがエサをついばむ姿が見られます。富岡八幡宮の例大祭で横浜市指定無形文化財の祇園舟も、7月中旬にこの船溜まりで行われています。



●●● 水・緑・歴史めぐりコース 120分

豊かな自然をたどる起伏に富んだコースです。まちの名所を訪ね歴史の薫りや眼下に広がる眺望を堪能してください。

【京急富岡駅】……【富岡川せせらぎ緑道 往復30分】……5分…
【旧川合玉堂別邸(二松庵)】……20分……【長昌寺】……25分…
【富岡総合公園見晴台】……20分……【慶珊寺・直木三十五文学碑】
……20分……【京急富岡駅】

●●● いにしへのなぎさコース 110分

かつての海岸線をたどり、水鳥で賑わう漁港の名残を訪ねる、丘の裾を歩くコースです。いにしへのなぎさを繰取る緑や春には桜並木が楽しめます。

【金沢シーサイドライン「南部市場」駅】……15分……
【「横浜海軍航空隊」石門】……40分……【長昌寺】……15分……
【慶珊寺・直木三十五文学碑】……15分……【富岡八幡宮】……10分…
【船溜まり】……15分……【金沢シーサイドライン「並木中央」駅】

トイレ 小径

●富岡総合公園

明治時代には幕末・明治期に太政大臣を務めた三条実美の別荘「富岡海荘」がありました。昭和初期に「横浜海軍航空隊」の基地が設けられ、今も当時の石門や鳥舟(浜空)神社が残ります。戦後、米軍に接収され、返還後に公園になりました。ミズキ、タブ、クヌギなどの自然樹林が残り、晴天の日には房総半島まで望めます。



●慶珊寺 1624年(寛永元)

富岡の領主で旗本の豊島明重が両親を弔うために建立した寺で、寺の名前は明重の両親の法名に由来します。江戸城内で老中・井上正就に対し刃傷事件を起こして切腹させられた明重と連座した息子の吉継の供養塔(横浜市登録文化財地域史跡)があります。



●富岡八幡宮 1191年(建久2)

源頼朝が富岡の鎮守として建てたと伝えられ、1311(応長元)年の大津波から村を守ったいわれから「波除八幡」として知られています。最近、社殿の改修、覆殿の再建が行われました。社殿の北東に広がる社叢林は、かつて関東地方の海岸沿い斜面に見られたスダジイ林の貴重な例として横浜市指定天然記念物になっています。

